



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2007.8

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話 (03) 3381-7656 FAX (03) 3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

政治が動き出した！ 自民、歴史的大敗！
自民党の崩壊が加速する！
保守二大政党の対極に
平和希求の第三政治勢力の結成が急務！

自民、歴史的大敗！ 護憲勢力も総崩れ！

自民の改選議席 64 が 37 になり、27 議席減だ。公明も 12 が 9 に、3 名減。これに比して民主は改選議席 32 が 60 に、28 議席増とほぼ倍増した。1 名区では自民 6 に対し民主 23 議席と文字通りの圧勝となった。この結果、非改選を含めると、自民 83、公明 20 (103) に対し民主は単独でも 109 となり、与党は無所属 1 を加えても 104 にしかならず野党の 137 に遠く及ばないことになった。

この結果、(自、民に本質的な大きな差はないが) 今後の国政はこれまでのように自公が数の暴力で強行採決をすることは難しくなった。参院議長や運営委員長など主要委員長を民主など野党が占めるからである。政策的にも変化は期待できる。

まずは 11 月に期限切れとなる「テロ対策特別措置法」に小澤民主党は延長反対を明言している。宙に浮いた 5000 万件の年金問題、政治と金の問題・・・ 加えて自民党内の主導権争いなど、政治が間違いなく動き出した。

それにしても、自民が何故これほどまでに大敗したのか！ なのに、小泉・安倍政治を全面否定した共産党が改選 5 議席を 3 に、同じく社民党が 3 議席から 2 議席になってしまった。我々 9 条ネットも 10 名の公認を擁立して結果はゼロである。残念の極みだ！

しかし、支持した無所属の川田(東京)、系数(沖縄)が当選したので政治変革の兆しは見え始めた。これで 9 条ネット公認の天木か栗原を当選させていれば政界に新しい風を巻き起こせたのに・・・ 悔やみきれない！ 後でしっかり総括をしなければならない。

自民党大敗の真因

5000 万件もの宙に浮いた年金問題、相次ぐ閣僚の事務所費など政治と金の問題、住民税の 2 倍

引き上げ、強行に次ぐ強行採決の国会運営などなど、あまりにもデタラメで乱暴な自公政治に国民の怒りが爆発したということかも知れない。しかし、それだけでは6対23という1人区の結果は説明しきれない。

自民党大敗の真因は、私も以前から指摘してきたし、9条ネットが結成された背景でもあるし、新社会党都本部が川田龍平を支持した理由でもあるが一言でいえば“戦後日本支配構造の崩壊の進行”なのである。

以下、参院選に際し私が訴えたアピ - ルの一部を再掲しよう。

『いま、日本社会があらゆる面で構造的に金属疲労を起こしています。宙に浮いた5000万件の年金、2倍に跳ね上がった住民税、無責任な経営者、軽い大臣や議員、回復不能の格差、3万人以上の自殺者……。財界を頂点とした日本支配層（財、政、官）が理念と倫理観を喪失し、弱肉強食の妖怪が利潤だけを求めて人間をむさぼり食ってきた結果です。

それはまた、戦後60余年をして日本政治の舵取りをしてきた自民党という政治機構が終焉を迎えたということでもあります』

ここでは日本社会があらゆる面で構造的に金属疲労を起こしていると言っているが、それは大都市と地方、大企業と中小零細商工業、正規雇用と非正規、男女間差別、強い者勝ち、倫理観や理性、理念、生命の軽視であり、人間そのものの破壊などである。

自民党の崩壊が加速する。

安倍首相はこの参院選に際し「日本の首相として私と小澤さんとどちらが相応しいか、の選択だ」と言い放っていた。にもかかわらず、これ程こっぴどく叩きのめされたのに、“大敗”が明らかになったその日に「首相続行」を宣言した。一国の首相の言動として無節操で無責任極まりない。多くの国民は急速に見放すだろう。なのに、衆参合わせて400人もいる自民党国会議員は貝のごとく口を閉ざして何も言わない。想像を絶する大敗で頭が真っ白、思考停止に陥ってしまったか！

安倍首相は「戦後レジ - ムからの脱却」と言っているが、安倍首相のいうそれは教育基本法と憲法を改悪し、国民の心を改造し国の形（有り様）を「明治憲法下の昭和への逆戻り」でしかない。それはまた、戦後支配層の行き詰まった今日の状況を強権的国家主義によって打開しようするものでもある。

そして、いま国民に突きつけられていることは、憲法改悪（9条放棄）をなしとげアメリカと一体になって戦争ができる国にしようということであり、一方で国民からは更なる過酷な収奪をなそうとするものであって断じて認められるものではない。

まさに、今回の参院選の結果はこのような安倍首相の否定であるが、政治の表層部分での失政が大であり、今後の闘いを通じて完膚無きまでに打倒しなければならない。

保守二大政党の対極に 平和を希求する第三政治勢力の結成が急務！

今回の参院選で自民党は大敗した。しかし、このことによって日本の支配構造が大きく変わるものではない。政治の現状は保守二大政党に収斂されようとしている。この流れをくい止め、政治の質を大転換させることはこれまでの政治（自民党から共産党を含む政党の枠組み）では不可能に近い、それは今回の参院選の結果や近年の選挙結果で明らかである。共産も社民も選挙の度に議席を減らしている。共産は改選議席が5から3に、社民は3から2になってしまった。

従って、軍事大国、強権国家への道を拒否するためには「新しい政治の受け皿と政治家」が用意されなければならないのだ。

それが「9条ネット」である。「9条ネット」は共産党や社民党を初め全ての平和団体に共同闘争を呼びかけている。即ち、保守二大政党の対極に平和を希求する第三政治勢力の結集である。この実現なくして非戦の日本はない。

この9条ネットの試みが今回の参院選であった。しかし、あまりにも時間不足のため実を結ばなかった。現状の共産、社民などの対応をみれば共同闘争の実現は簡単ではないが客観情勢は急がなければならない。

07年8月5日

9条ネット世話人：江原 ひであき